



多くの笑顔があふれる山陰三ツ星マーケット。商品のクオリティーはもちろん、人とのつながりも魅力の一つだ

## information

12月21日 11:00~18:30

バード・ハット&鳥取大丸軒下にて「バード・ハット クリスマスフェスティバル」  
16:00~イルミネーション点灯  
(主催:新鳥取駅前地区商店街振興組合)  
<https://www.facebook.com/sanin.mitsuboshi.market/>

## 巻頭特集 いつも、何度でも楽しい! トキメキに出合えるマルシェ

# 山陰三ツ星マーケット

JR鳥取駅前のバード・ハットを中心に県内外で開催される「山陰三ツ星マーケット」。こだわりの手作り商品が並び、おしゃれなマルシェに毎回2000人以上の客が足を運ぶ。人々を惹き付ける魅力について、代表の渡世唱子さんに話を聞いた。

### 雰囲気づくりにこだわり 鳥取のいいものを発信

「『三ツ星』は、いわゆる評価の星数ではなく、こだわり、心、オリジナリティーの、3つの星を持った商品ということなんです」と、「山陰三ツ星マーケット」代表の渡世唱子さんは声を弾ませた。

渡世さんは、鳥取市で生まれ育った。結婚を機に兵庫県新温泉町に移ったが、職場は常に鳥取県内。有名宝飾ブランドの鳥取・米子両店の店長を務め、退職後は接遇講師や行政関係の仕事で人脈を広げた。2017年は、渡世さんにとって激動の年だった。発端は3月に参加した、移住者向け鳥取体験ツアーを企画するプロジェクト。渡世さんのチームは、「女性がとぎめくこと」をコンセプトに、農業と収穫物の加工販売を体験する「とぎめきマルシェツアー」を立案した。



まるでヨーロッパのマルシェのような雰囲気。マーケット全体のデザインにもこだわった

### とぎめきを形にする場所 デザインで会場に統一感

迎えた10月の初開催。大丸の屋上と軒下に、木と白布の屋台が連なった。頭上には可愛らしいガーランド。そろいとの看板の下に選りすぐりの商品が並び、店主が笑顔でもてなす。おしゃれな空間で地元の良品を選ぶ夢のマルシェの誕生に、女性のみなならず、訪れた人はみな心をときめかせた。

マーケットの内容は、実に多彩だ。農産物や加工品、パンや料理、種々のハンドメイドクラフトに生花。リラクゼーションやワークショップなどの体験もある。実行委員が自分の足で探し出した店や、自薦、他薦などさまざま。現在登録者は170を超えた。ひとかたならぬ思いを込めて仕事をする、「3つの星」の持ち主ばかりだ。

「『あなたの『とぎめき』をもっと形に』が、マーケットの主題です。」

### 県外へも鳥取の魅力を出前 新展開も企画中

ここはみんなの思いを表す場所。だから会場がキラキラするんです」と、渡世さん。そうした強い個性を統一されたデザインで包み込み、会場の一体感を創出する。毎回少しずつ変化させ、店も入れ替えて、何度来ても新鮮さを感じられる工夫を重ねている。「ご来場の際は、ぜひ店主と言葉を交わして商品説明や物語を聞いてください。ワークショップに参加して、ゆっくりとお話ししたいだけでもおすすめです」と、渡世さんは楽しみ方を伝える。

個人で生産活動を続けている人たちも多く出店する。マーケットで自信をつけて、店舗を構える参加者も現れ始めた。輝きを増した星たちが、まちに散りばめられて行く。

各店の営業努力もあって、マーケットには毎回2千人以上が来場する。イベントから出張依頼が増え、いま鳥取駅前のバード・ハットを拠点に、各地で週1度程度実施している。関西でも幾度か開き、2日目にリピーターが訪れる盛況ぶり。鳥取の魅力再認識し、今後、東京への進出も検討している。バード・ハットでの開催も定着し、鳥取大丸リニューアルや市役所移転も相まって、駅前には活気を帯びつつある。



バンド演奏も行われ、祭りのような雰囲気

しばしば集まり、まちづくりなどについて意見を交わした。その一人、「まるでわプロジェクト(※)」主催の齋藤浩文さんが、「鳥取大丸を会場に、女性がとぎめくマルシェをしよう」と提案。3月のメンバーを中心に、7月、実行委員会が設立された。

渡世さんには、景色が見えていた。「ヨーロッパのマルシェのような雰囲気、鳥取のいいものを演出し、提供したかった。それには、こだわった舞台づくりが必要でした」。イメージの具体化に向けて、準備を開始。造作物を特注し、「これは」と思う事業者に声をかけて、約30の出店を取り付けた。鳥取を打ち出す名称を検討し、渡世さんが暮らし但馬も入る「山陰」を採用。「とぎめきマルシェ」が「山陰三ツ星マーケット」に名を変えて生まれた。オープンまで、寝る間も惜しむような3カ月間だった。



山陰三ツ星マーケット 代表 渡世唱子さん

仕事を持つ実行委員では手が回らなくなり、発散的解散という形をとって事業は渡世さんが引き継いだ。しかし、関わりは途切れず、専門的な分野において協力してもらっている。1店舗3千円の出店料はすべて会場デザインや諸経費に費やしながら、運営を続けている。「これまで人脈や知識など多くを吸収させてもらったので、今度はそれを還元したい。いま、自分の思いを形にできている。三ツ星マーケットが私のエネルギーなんです」と、渡世さんは顔を輝かせ、「家族には感謝していますけどね」と笑った。

出荷基準に満たない農産物を活用する新企画も思案中だ。自らがバイヤーとなってネットで流通させたり、マーケットで客が選んだ素材を目の前で調理するダイニングを考えている。食材を無駄なく生かし、観光客致にもつなげたい思いがある。こっそり輝いていた鳥取の魅力を集め、大きな光を放つ山陰三ツ星マーケット。あなたも出かけてみれば、きっと新しい出会いがあるだろう。